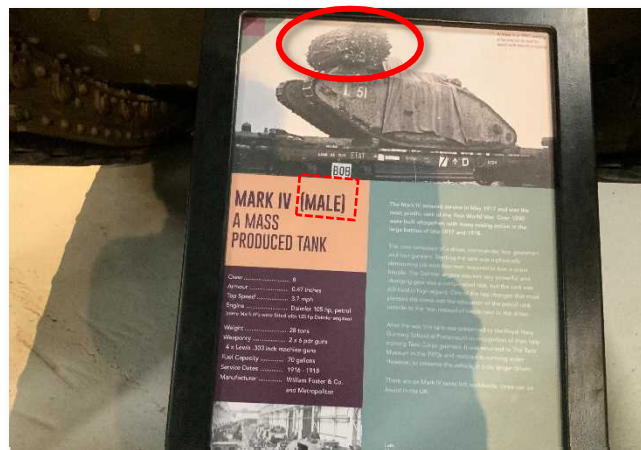
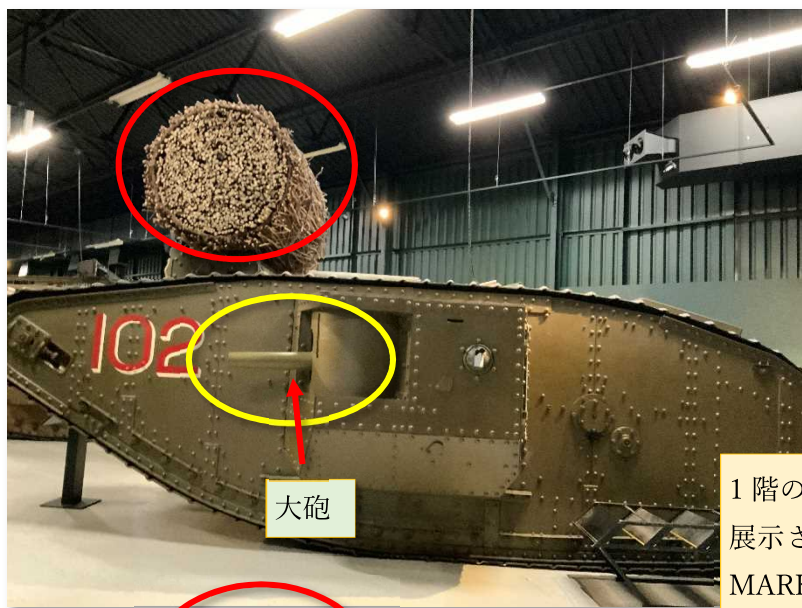


戦車博物館紹介②（館内写真など）；第1次大戦中のマーク型戦車などの紹介

下図は私がショップで購入したパンフの裏表紙の館内マップです。



1階の最初のコーナーは第1次大戦当時の戦車、馬などが展示されています。写真は1917年から戦闘に参加したMARK IVです。戦車の上に俵のようなのを乗せていますが、説明文を読むと塹壕を渡るのに細い木などを運んでいる所だと書いてあります。1200台が生産されたそうです。乗員は全部で8名。ドライバー1人、指揮官1人、ギアを動かす人 (gearsman) 2人、銃 (大砲) を撃つ人 (gunners) 4人だったと書いてあります。ギアを動かすのが複雑だったとも書いてあります。大砲の口径は約6cm。

マーク型戦車はI～V型までである。上記説明に male と書いてあるが、戦闘用が male で male を守るための戦車が female とのこと (大砲の数など武装が違う)。



確か映画インディーズ最後の聖戦にも登場したと思います。ハリソン・フォードが活躍したシーン、覚えてますか？





大砲を撃つ人

ドライバー

マークIVの内部モデルです。ここでは4名しか乗ってませんね。

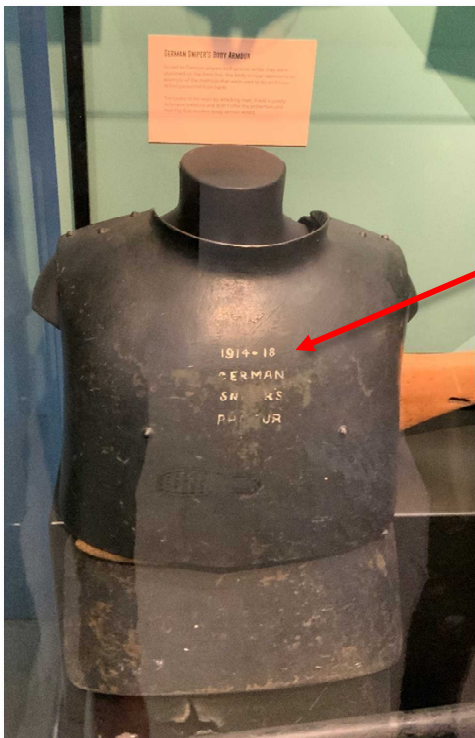


ここから戦車に乗り込みます。

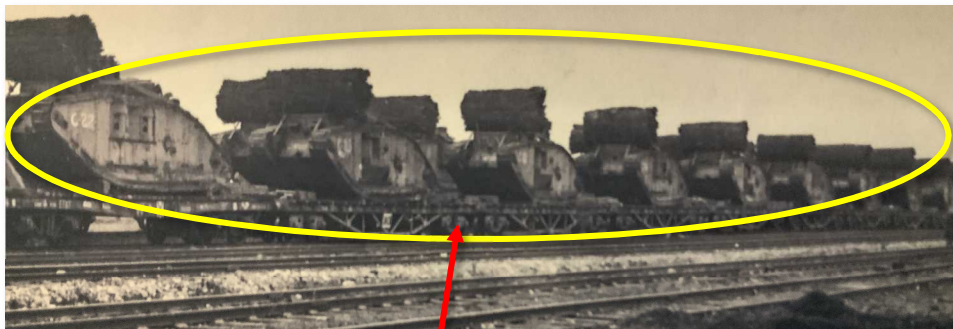


塹壕の上を歩いていく戦車の様子です。

注意！として子供は総てのトンネルに（大人は）監督しておく（supervised）ようにと、書いてあります。



第1次大戦中に最前線にいたドイツ軍スナイパー（狙撃手）が使っていた鉄の鎧（armour）。重くて一般兵士は使用しなかったと記載してあります。また、現在の防弾チョッキのような性能は無かったとも記載してあります。



列車で多数のマーク型戦車が戦場に運ばれていく写真。



第1次大戦中に掘られた実物大の塹壕の中も通ることが出来る。実際にはジメジメと湿気もあって大変だったろうと思います。こんな戦争を4年もしていたのですからね。



階段



弾薬など



兵士の蠟人形。



左写真はマークII型。内部構造が示してある。

砲弾 (直径は約 6cm;砲弾の直径が大砲の口径とほぼ同じ)